

探検後の表現活動②～伝え方の工夫～

探検から帰校して教師も子どもも「ふう。」と一安心。これでは、「体験あって学びなし」の学習となってしまいます。大切なのは一息入れた、その後の活動なのです。

探検で得た気づきを自覚させたり、友達に発信し気づきを共有化したりする表現活動を行いましょう。体験活動と言語活動を組み合わせることが生活科ではポイントになります。

ここが
ポイント

発表内容の選定が肝！

子どもは、探検の中で多くの「価値ある発見」をしてきます。しかし、発表する際に、せっかくの発見を選ばずに発表してしまったという経験はありませんか。

それを防ぐためにも、子どもと対話しながら（時には赤線記入やシールで教えたり、言葉を引き出したりして）発表する内容を決めるようにしましょう。教師の関わりによって、子どもの発見に含まれる価値を自覚できるようにし、発表内容を選ぶことが必要なのです。

ここが
ポイント

発表内容は当日までのお・た・の・し・み！

発表内容が決まり、「さあ、練習！」と張り切って教室で大きな声で練習する子どもたち。でもこれでは、本番を前にして内容が他のグループにすべて聞こえています。これでは、発表を聞く場でワクワクしなくなってしまいます。

ここでポイントになるのが、練習する環境を整えてあげることです。グループの数だけ練習する場を確保してあげましょう。そうすることで、声の大きさや動きなどで周りを気にすることなく練習に集中することができます。

さらに、発表内容を当日まで秘密にすることで、それぞれが俄然やる気を出します。このワクワク感が低学年の子どもたちには魅力的なのです。

ここが
ポイント

他の教科等と関連させて発表方法を工夫する！

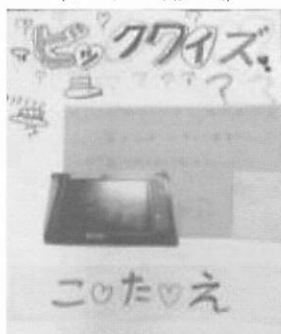
2年生の子どもは様々な教科の学習を通して、いくつかの発表方法を学んでいることでしょう。自分が決めた発表内容がより効果的に伝わるには、どの方法にすればよいかを教師と一緒に考えていきましょう。探検で土産をいただいた子は実物提示、店員さんの技を見せるため動作化(劇化)、クイズ形式やポスター作り、ペープサートなど、多様な方法から適切に選択します。

こうすることで、聞き手も集中して聞くことができるので、話し手はより満足感を得ることができます。発表方法を工夫することのメリットは多いでしょう。

〈ポスターセッション〉



〈クイズ形式〉



〈動作化〉



ここが
ポイント

友達から評価をもらう (他者評価)

探検で見つけた「おすすめ」を発表する際、聞き合うだけでなく、評価する場を設定(写真では付箋に書いています)しましょう。発表する子どもの中では、無自覚だった探検での気づきが、他者に評価されることで、自覚していきます。

このとき、教師も一緒にコメント入りの付箋を貼ると更に効果的です。「次も新たな発見を!」「○○さんみたいなものを見付けるぞ!」と、次の活動への意欲付けになったり、「自分の発見は、すごかったんだ!」という自己有用感を高めることにもつながったりします。

